

平成28年4月18日

平成28年度文化庁文化交流使の指名

文化庁では、平成15年度より、芸術家、文化人、研究者等、文化に携わる人々を一定期間諸外国へ派遣する「文化庁文化交流使事業」を実施しています。（別紙2参照）
このたび、以下のとおり、平成28年度「文化庁文化交流使」を指名しましたので、お知らせします。略歴は別紙を参照ください。

平成28年度文化庁文化交流使 ※敬称略，50音順（別紙1，3参照）

- ・佐藤 可士和さとう かしわ（クリエイティブディレクター，株式会社サムライ代表取締役）
- ・佐野 文彦さの ふみひこ（建築家，美術家）
- ・土佐 尚子とさ なおこ（アーティスト，京都大学教授）
- ・藤間 蘭黄ふじま らんこう（日本舞踊家）
- ・柳家 さん喬やなぎや きょう（落語家）
- ・山田 うんやまだ（振付家，ダンサー）

<担当>文化庁長官官房国際課

課長 匂坂 克久（内線2845）
国際文化交流室長 大條 成太（内線3153）
国際文化交流室室長補佐 林 保太（内線3166）
振興係長 是永 寛志（内線3167）
電話：03－5253－4111（代表）

平成28年度文化庁文化交流使

氏名	年齢	性別	プロフィール	国名(予定)	期間(予定)	主な活動内容(予定)
さとう かしわ 佐藤 可士和	51	男	クリエイティブディレクター、 株式会社サムライ代表取締役	フランス、アメリカ 等	約1か月 (平成29年3月～ 平成29年4月)	欧米において、様々なビジュアルコミュニケーションの実例に関するレクチャーや現地デザイン関係者との情報交換を行い、日本文化に根ざす今日の日本のクリエイティブデザインへの理解促進と今後の交流の活発化を目指す。
さの ふみひこ 佐野 文彦	34	男	建築家、美術家	フランス、メキシコ、 ミャンマー 等	約8か月 (平成28年8月～ 平成29年3月)	アジア、欧州、南米等において、伝統的な「数寄屋造り」の技法をベースに、各地で現地の素材やアーティストとのコラボレーションを通じて建築物や美術作品を制作する。
とさ なおこ 土佐 尚子	54	女	アーティスト、京都大学教授	アメリカ、オーストラリア、 ニュージーランド、シンガポール、 イギリス、フィリピン	約7か月 (平成28年9月～ 平成29年3月)	伝統文化と先端技術を融合したメディアアートを通じて、技術に触れながら日本の伝統文化について深く考える機会を提供するため、レクチャーやワークショップを行う。また、積極的に各国のアーティスト・文化人との意見交換を行い、その成果をシンポジウム等を通じて広く発信する。
ふじま らんこう 藤間 蘭黄	53	男	日本舞踊家	フランス、イギリス、 ドイツ	約4か月 (平成29年3月～ 平成29年7月)	欧州において、日本舞踊の紹介と実演及びワークショップ(定期的な教室の開催)、現地のアーティストとの共同制作を行う。
やなぎや さんきょう 柳家 さん喬	67	男	落語家	アメリカ	約1か月 (平成29年2月～ 平成29年3月)	主にアメリカの日本語学習者等に、小唄のレクチャーを行い、落語を通じた日本語・日本文化理解を促すほか、高座を行い、言語としての理解を超えた「表現活動」としての落語の世界の奥深さを伝える。
やまだ うん 山田 うん	46	女	振付家、ダンサー	イスラエル、ドイツ、 カナダ 等	約6か月 (平成29年3月～ 平成29年9月)	作品の実演、実技指導、現地のダンサーとの情報交換、現地の文化環境や地域伝統芸能等のリサーチ等を行う。また、既に繋がりのある国においては、将来の共同制作やツアーに向けてのミーティング、ワークショップ、共同企画公演の実施等を行う。

文化庁文化交流使事業（Japan Cultural Envoy）について

【目的・趣旨】

文化庁では、芸術家・文化人等を一定期間「文化交流使」に指名し、世界の人々の日本文化への理解の深化につながる活動や、諸外国の芸術家・文化人等とのネットワークの形成・強化につながる活動を展開している。

【概要】

文化交流使の活動の概要は以下のとおり。

①概要

芸術家・文化人等を海外へ派遣し、それぞれの専門分野における実演、実技指導、講演、講義、上映、展示、共同制作、情報交換等を行う。

※芸術家・文化人等には、複数の芸術家・文化人等で構成された、1組の文化交流使とみなすことがふさわしいと文化庁が判断したものも含まれる。

②指名期間

原則として1か月以上12か月以内（最長1年）

※1か月につき8回以上、文化交流使としての活動を行う。

③文化庁の負担

交通費、現地滞在費（定額の宿泊費と日当）、現地での活動経費（活動期間に応じた定額の謝金）等

【活動実績】

平成15年度から27年度までに、伝統音楽や舞台芸術、生活文化やポップカルチャーといった多様な分野で活躍する芸術家・文化人等、延べ122名と2グループ（5名）、26組（団体）の文化交流使が世界79か国で活動を行った。

※実績は、現地滞在者型（平成15年度～21年度）及び短期指名型（平成20年度～25年度）を含む。

【指名手続】

- ・文化交流使は、「文化交流使事業委員会」（※）の推薦を経て、文化庁長官によって指名される。

※「文化交流使事業委員会」は、文化交流使事業の適正・効率的な執行を担保するため、文化庁長官の下に置かれる委員会で、関係行政機関、学識経験者等から構成される。

- ・候補者選定に当たっては、外務省在外公館及び国際交流基金海外事務所の協力を受け、諸外国における芸術家・文化人等のニーズ調査を行っている。

平成 28 年度文化庁文化交流使 略歴

(敬称略・50 音順)

- さとう か し わ
佐藤 可士和 (クリエイティブディレクター, 株式会社サムライ代表取締役) 1
- さ の ふ み ひ こ
佐野 文彦 (建築家, 美術家) 2
- と さ な お こ
土佐 尚子 (アーティスト, 京都大学教授) 3
- ふ じ ま ら ん こ う
藤間 蘭黄 (日本舞踊家) 4
- や な ぎ や き ょ う
柳家 さん 喬 (落語家) 5
- や ま だ
山田 うん (振付家, ダンサー) 6

さとう か し わ

佐藤 可士和 (クリエイティブディレクター, 株式会社サムライ代表取締役)

【出 生 地】東京都

【生年月日】1965 年

【学 歴】多摩美術大学グラフィックデザイン科卒

株式会社博報堂を経て 2000 年に独立, クリエイティブスタジオ「SAMURAI」を設立する。ブランド戦略のトータルプロデューサーとして, コンセプトの構築からコミュニケーション計画の設計, ビジュアル開発まで, 強力なクリエイティビティによる一気通貫した仕事は, 多方面より高い評価を得ている。グローバル社会に新しい視点を提示する, 日本を代表するクリエイター。主な仕事にユニクロ, セブンイレブン, 楽天, 明治学院大学等のブランディングプロジェクト, 国立新美術館, 東京都交響楽団のシンボルマークデザインなど。近年は, 今治タオルのブランディング, JAPAN 国際コンテンツフェスティバルのシンボルマークデザインとクリエイティブディレクションなど、日本の優れたコンテンツを海外に広く発信することにも力を注いでいる。慶應義塾大学特別招へい教授, 多摩美術大学客員教授, 東京 ADC 理事。20 万部超のベストセラー『佐藤可士和の超整理術』(日本経済新聞社)はじめ, 『佐藤可士和のクリエイティブシンキング』(日本経済新聞社)ほか著書多数。



【受 賞 歴】

毎日デザイン賞, 東京 ADC 賞グランプリ, 東京 TDC 賞金賞, 朝日広告賞グランプリ, 亀倉雄策賞, グッドデザイン賞, 日本パッケージ大賞金賞, Design for Asia Award グランプリ 他

【海外活動歴】

- 2006 今治タオルブランディングプロジェクト・クリエイティブディレクター
ユニクロ, グローバルブランド戦略, ディレクション
- 2007 JAPAN 国際コンテンツフェスティバル, シンボルマークデザイン
- 2016 有田焼創業 400 年事業「メゾン・エ・オブジェ出展プロジェクト(ARITA 400project)」
(パリ, フランス)

【ウ ェ ブ】<http://kashiwasato.com/#profile>

さ の ふみひこ
佐野 文彦 (建築家, 美術家)

【出 生 地】奈良県

【生年月日】1981 年

【学 歴】－

1981 年奈良県生まれ。京都, 中村外二工務店にて数寄屋大工として弟子入り。設計事務所などを経て, 2011 年, 佐野文彦 studio PHENOMENON を設立。大工として, 技術や素材, 文化などと現場で触れ合った経験を現代の感覚と合わせ新しい日本の価値観を作ることを目指してデザインやインスタレーションを手掛けている。

【略 歴】

2011 Fumihiko Sano studio PHENOMENON 設立

五感のおもてなし MA2gallery に『TENKAI』にて参加

捨象美術 neutron Tokyo に『玄像庵』にて参加

2012 東京にて bar 「 」 MUDAI / 『円游庵』をデザイン

パリにて折形を通し日本の文化を紹介する会員制サロン『MIWA』をデザイン

2013 ニューヨークで開催された Arts of JOMON に『Ma/ Ba』にて参加

六本木ヒルズ A/Dgallery にて開催された「土師カバネ」に『虚像庵』にて参加

フランス国内を巡回する展示会 Japan Best の什器デザイン・会場構成

Pusan Sea Art festival2013 (釜山/韓国) に『Ma/Layer』にて参加

Photo by 篠山紀信

パリ, 東京を巡回する写真展 LUMIX MEETS TOKYO2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS 9 会場構成

2014 住宅『MoyaMoya』を設計

ELLE DÉCOR International Design Awards Special Exhibition 会場構成

ELLE DÉCOR Japan ヤングジャパニーズデザインタレント賞 受賞

文部科学省共同主催「夢ビジョン 2020 オープンセッション 霞が関で私の未来をブレストする！」(第1回) にて部長, モデレーターを務める

2015 21_21DESIGN SIGHT 単位展に『UNIT of MUJI』にて参加

無印良品有楽町店 エントランスステージにて『ユニットシェルフでできた家』を制作

東京ミッドタウンにて開催されたデザインタッチ 2015 に 『木を見て森を見ず』にて参加

日本デザイン振興会主催メコンデザインセレクションにてミャンマーの現地企業との共同によるプロダクトデザイン

京都市にて築 110 年の木造洋風建築をリノベーションしたコワーキングスペース『MTRL KYOTO』を設計

【ウ ェ ブ】<http://fumihikosano.jp/>



Photo by 伊熊泰子

【出 生 地】福岡県福岡市

【生年月日】1961 年

【学 歴】工学博士 (東京大学)

感情・意識・物語・民族性といった人間が歴史の中で行為や文法などの形で蓄えてきた文化を、デジタル映像で表現し、心で感じる「カルチュラル・コンピューティング」を提唱し、作品制作、研究を行う。

作品は、感情を読んで対話するコンピュータ「ニューロベイビー」、物語るコンピュータ「インタラクティブポエム」、無意識のコミュニケーションを可視化した「無意識の流れ」、コンピュータによる山水禅「ZEN Computer」、場の空気を読むコンピュータ「i.plot」、ネットからテキストを連想検索して俳句を作るコンピュータ「Hitch Haiku」がある。近年では、ハイスピードカメラを使い、先端技術でしか見えない映像表現にも取り組んでいる。ACM SIGGRAPH, ARS ELECTRONICA といった代表的な芸術とテクノロジーの国際会議にて、講演とともに作品発表。

ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館等の企画展に招待展示。企業との受託研究はフランステレコム R&D, タイトー株式会社, NICT, ニコン株式会社などがある。学会活動は、2001 年芸術科学会設立メンバー、副会長を経て現在顧問。2006 年より IFIP TC16 Entertainment Computing Art & Entertainment Chair 2013 年, 2015 年文化とコンピューティング国際会議議長。ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館での招待展示をはじめ、国内では国立国際美術館, O 美術館 (東京), 富山県立近代美術館, 名古屋県立美術館, 高松市立美術館などで収蔵されている。



【略 歴】

- 1995- 2001 国際基礎基盤研究所知能映像通信研究所客員研究員
- 1996 IEEE マルチメディア国際会議'96 最優秀論文賞
- 1997 芸術と科学を融合した研究に贈られる ロレアル賞 大賞受賞
- 2000 アルスエレクトロニカインタラクティブアート 部門にて受賞
- 2001 文化庁芸術家在外派遣特別研修員フェローシップ
- 2001-2004 JST さきがけ「相互作用と賢さ」領域研究に従事
- 2001 -2004 マサチューセッツ工科大学 Center for Advanced Visual Studies フェローアーティスト
- 2004 ユネスコ主催デジタル文化遺産コンペで 2 位受賞
- 2006 IFIP TC16 Entertainment Computing Art & Entertainment Chair
- 2012 韓国の麗水万博で 250m×30m の巨大スクリーンに龍を泳がせ万博委員会より表彰
- 2014 シンガポールでのプロジェクションマッピング「サウンドオブ生花」にて、グッドデザイン賞受賞
- 2015 京都府事業である琳派 400 年プロジェクションマッピング「土佐琳派」を京都国立博物館で開催

【ウ ェ ブ】 <http://www.naokotosa.com/> (作品紹介)
<http://www.tosa.media.kyoto-u.ac.jp/index.j.html> (研究)

ふじ ま らん こう
藤間 蘭黄 (日本舞踊家)

【出 生 地】東京都

【生年月日】1962 年 11 月 6 日

【学 歴】慶應義塾大学文学部中退

江戸時代から続く「代地」藤間家の後継者。67 年、祖母藤間藤子・母藤間蘭景より踊りの手ほどきを受け 68 年初舞台。78 年、4 代目家元藤間勘右衛門より「藤間蘭黄」の名を許される。一門の舞踊会「紫紅会」、リサイタル「蘭黄の会」を主催するほか流派を超えての「五耀會」や、リサイタル「蘭黄の会」を開催。曾祖母藤間勘八、藤子、蘭景に伝わる古典作品の継承に務める傍ら、海外の文芸作品や音楽を題材にした新作も自身の作・演出・振付により発表している。2015 年に、ロシアの世界的バレエダンサー、ファルフルジマトフ・岩田守弘とのコラボレーション企画「出会い」公演で『信長-NOBUNAGA-』を初演。



Photo by 篠山紀信

長唄は、故家元6世杵屋正次郎、能楽は金春流故金春信高、茶道は裏千家即日庵宗安に師事、囃子は故藤舎せい子に師事し、藤舎清士の名前も持つ。

芸術選奨文部科学大臣賞 文化庁芸術祭新人賞など多くの賞を受賞。

現在は東京新聞全国舞踊コンクール ソウル国際舞踊コンクールの審査委員も務める。

【略 歴】

- 1985 松竹歌舞伎米国公演 (ロサンゼルス)
- 1989・90 文化庁青少年芸術劇場
- 1990 ロサンゼルス日米劇場主催「藤間藤子特別公演」
- 1992 第1回「蘭黄の会」 『長生』『一人挽久』『阿吽秋晴狐狸競』
- 1997 (財)日本舞踊振興財団ロサンゼルス・シアトル公演 『俊寛』
- 1997・98 文化庁移動芸術祭
- 2000 (財)日本舞踊振興財団ドイツ公演 『俊寛』
バレエ シャンブル ウエスト ロシア・エストニア公演 (振付・出演) 『時雨西行』
国際交流基金主催 日本舞踊欧州・中近東公演 (企画・出演) 『京人形』『須磨』
- 2003 韓国芸術総合学校世界民族舞踊研究所主催「世界無形文化財招へい公演」『鷺娘』(ソウル)
国際交流基金主催 日本舞踊極東ロシア公演 (企画・出演) 『京人形』『将門』
- 2005 国際交流基金助成日露修好 150 周年記念 日本舞踊極東ロシア公演 (企画・出演)
- 2010 極東ロシア 日本舞踊ワークショップ 『供奴』『藤娘』(レゾザボツク)
- 2012 (財)日本舞踊振興財団ウクライナ公演 『羽衣』『三つ人形』
- 2014 パリ・天理日仏会館 日本舞踊ワークショップ・パフォーマンス 『都鳥』
- 2015 ロシア文化フェスティバル 2015 主催「出会い」公演 『山帰り』『信長-NOBUNAGA-』

【ウ ェ ブ】http://www.geocities.jp/rankoh_f/

やなぎや きょう
柳家 さん 喬 (落語家)

【出 生 地】－

【生年月日】1948 年 8 月 4 日

【学 歴】－

1967 年に五代目柳家小さんに入門し、1981 年に真打昇進。古典の人情噺や滑稽噺を得意とする実力派。日本全国で寄席や独演会の高座に出演し、五代目小さん一門の高弟として弟子や後進の育成に励む傍ら、日本語学習者に小噺をさせることで、落語を通して日本語表現や日本文化理解を深める活動を継続している。

とりわけ、2001 年から行われている筑波大学留学生対象の落語会では、落語を通して日本語表現法や文化を教えるために企画段階から参加。2006 年以降毎年実施している米国ミドルベリー大学夏期日本語学校における落語公演・小噺指導のほか、韓国、シンガポール、チェコ、ハンガリー、フランス、ポーランドなどにおいて公演・指導を行っており、その活動は、各地の日本語教育関係者から高く評価されている。



【略 歴】

1987 選抜若手演芸大賞真打部門大賞及び文化庁芸術祭賞 受賞

1994 浅草芸能大賞新人賞 受賞

2006 落語協会常任理事就任

2013 第 63 回芸術選奨文部科学大臣賞（大衆芸能部門） 受賞

2014 国際交流基金賞及び浅草芸能大賞奨励賞 受賞

【ウ ェ ブ】http://rakugo-kyokai.jp/variety-entertainer/member_detail.php?uid=44

(落語協会の芸人紹介プロフィールページ)

やまだ

山田 うん (振付家, ダンサー)

【出 生 地】栃木県宇都宮市 (神奈川県茅ヶ崎市育ち)

【生年月日】1969 年

【学 歴】—

器械体操, バレエ, 舞踏などを経験し, ダンサー・振付家として活動する。日本における希少なコンテンポラリーダンスのカンパニーとして, 意欲的に作品を発表し, 国内外で注目される。音楽, 美術, 文学, 学術, ファッション, 伝統芸能など異分野とのコラボレーションを行うほか, 演劇やオペラの劇中振り付けや新体操選手への振り付けも行う。また, アジアや中東の国立芸術大学やダンス教育機関に招かれ, 自身のレパートリー作品を振り付けるなど世界の第一線で活躍するプロダンサーの育成にも貢献している。



Photo by Maiko Miyagawa

【略 歴】

- 1996 振付家として作品を発表
- 1998 ソロダンサーとしての活動も開始
- 1999 文化庁派遣国内インターンシップ研修員に着任
- 2000 横浜ダンスコレクション・ソロ×デュオコンペティションにおいて
「若手振付家のための在日フランス大使館賞」を受賞し渡仏
- 2002 ダンスカンパニー「Co.山田うん」設立
- 2013 「山田うんソロダンス ディクテ DICTEE」北京公演にて振付・演出・出演
- 2014 ワークショップ作品『春告歌』『結婚』北京公演にて振付・演出
第8回日本ダンスフォーラム大賞受賞
平成26年度東アジア文化交流使
- 2015 平成26年度芸術選奨文部科学大臣新人賞 受賞
- 2016 Co 山田うんダブルビル公演 マレーシア版「ワン◆ピース」, 日本版「春の祭典」

【Co 山田うん, 主な海外招へいフェスティバル】

ヨーロッパ文化都市・シビウ ルーマニア, ヨーロッパ文化都市・パトラス ギリシャ, IN TRANSIT (ベルリン), TANT IM AUGUST (ベルリン), Indonesian Dance Festival (ジャカルタ), ChangMu International Dance Festival (ソウル), Asia-Europe Dance Forum (シンガポール), Dance with Japan (イスラエル)

【ウ ェ ブ】<http://yamadaun.jp/>